

# 世界に広まれ! 大森喝山

弘前南高等学校  
 佐藤 心温  
 佐藤 ゆき乃  
 大島 彩季  
 工藤 虹歩  
 奈良 小花紅

## 大森勝山遺跡について

- ・岩木山北東麓の標高約130~150mに立地している。
- ・北側には大森川、南側には大石川が流れている。
- ・馬のえさの牧草地だった。
- ・北海道北東北の縄文遺跡群の一つ。世界遺産登録を目指す。

## 鬼未力

- ・縄文時代晩期前半の環状列石が特徴的
- ・冬至の日入りは、岩木山の頂上に日が沈むように見える。
- ・基地や祭祀場に使われていた可能性がある。
- ・「何も無い、けど何かを感じる」ことができる遺跡。

## 弘前市の現状・鬼未力

### 現状

- ・弘前城天守、岩木山神社、長勝寺、など12か所が重要文化財に指定。
- ・津軽塗りを重要文化財である。
- ・457か所の遺跡がある。

### 鬼未力

- ・弘前城があり、城下町である。
- ・岩木山がきれいに見える。
- ・りんごがおいしい!
- ・ねぶたが、かわいい。

## 遺跡の活用方法

- ・映画化、パンフレットにのせる。
- ・マスコットを活用したグッズ開発
- ・市営バスとコラボ & バスツアー

環状列石さん。



# 縄文 's DAYS

青森県立弘前南高等学校 池田ひなた

## 大森勝山遺跡

大森勝山遺跡は、縄文時代晩期前半（紀元前1000年頃）に作られた、大型の環状列石が有名な弘

前にある縄文遺跡である。

## with弘前

弘前らしさと、遺跡の持つロ

マンをアピールするためには、「りんご娘」のように売り出しやすい名物を作ると良いと思う。だから私は、「縄文アイドル」を作ると良いと思った。

## 環状列石と冬至の日

大森勝山遺跡には環状列石という、縄文時代に祭りや墓地として使われていたとされる石の列がある。また、この遺跡からは岩木山を拜むことができ、冬至の日には朝日が山と重なる。

## HIROSAKI

弘前は、桜や

弘前城で有名である。

また、県全体としては、「りんご」やそれにちなんだ「りんご娘」などのアイドルも有名である。





# 大木<sup>木</sup>勝山遺跡の 新たな活用方法

弘前南高校 木村尋人 古川遙大 高橋舜 竹中重人 千葉裕也 福井海

## 大木勝山遺跡について

- ・縄文時代晩期(紀元前1000年)
- ・昭和36年に公有化
- ・環状列石が有名
- ・平成24年に国の史跡に指定
- ・大型堅穴住居がある

## 大木勝山遺跡の魅力

- ・人工物がほとんど見えず岩木山の壮大な景観が望める。
- ・環状列石の内部は盆状に土が盛り、中央からは石が見えないツリとなっている
- ・環状列石のまわりから、約250点もの出土品が見つかりている
- ・縄文時代晩期の環状列石としては、全体の形状や規模がわかる唯一の列

## 弘前市の魅力

- ・美味しいものがたくさんある(郷土料理など)
- ・桜がキレイ
- ・リンゴがいっぱい

## 遺跡の活用方法

- ・縄文生活体験(縄文人の暮らしを再現)
- ・ARを活用し、当時の生活風景を体感
- ・古代人のファッションを解釈し、ファッションショーを開催

# どうして大平山元遺跡を

活用しないことがあろうか、

いや、きっと活用することがあろう！

青森県立青森東高校 成田祥佳

## ・大平山元遺跡の概要

この遺跡は最古級の遺跡とされている。この最古級が重要で最古とは言えない。その理由は、今のところ最古の土器が見つかっているが、中国・ロシア、そして日本国内でまだ見つかっていない遺跡がある可能性がありえるからだ。次に、発見された石器を簡単に説明する。矢じり、石斧、石刃、そして重要なのが神子柴・長者久保石器と無文土器(模様がついていないから)だ。なぜかという、神子柴・長者久保石器は旧石器時代だと考えられていたが、無文土器によって縄文時代ではないかとなったからだ。最後に今の状況について紹介する。今は発掘が終わり、埋め立てが始まっている。これは土器などの風化を抑えるためである。例としては弘前だ。ただ、この後に復元(第一次整備)を行っていく。縄文時代(縄文移行期)のモデルが楽しめると思うので、是非とも見に来て欲しい。



## ・外ヶ浜町の概要

外ヶ浜町(そとがはままち)は、青森県北部、津軽半島の北東部に位置する町。2005年(平成17年)3月28日に、蟹田町、平館村、三厩村が合併して外ヶ浜町となった。町の木は、松。町の花は、あじさい。町の鳥は、かもめ。

## ・遺跡と町の観光発信

大平山元遺跡の近くの大山小学校の跡の大山ふるさと資料館で掘り出された土器や石器が展示されている。また、大平山元遺跡の世界文化遺産登録を支援する住民団体「大平山元遺跡もりあげ隊」による魅力を発信。同隊による同隊の公式キャラクター「ムーモン君」を制作。後にクッキー等が作られる。



## ・大平山元遺跡と外ヶ浜町の活用方法

津軽線を活用した案だ。JRの国鉄型の列車(リゾート列車)や一般列車を1年に1回~3回程度使う。蟹田駅から観光が始まり、列車に乗って大平駅で下車して、大平山元遺跡(と大山ふるさと資料館)での観光をする。そして、列車に戻り、移動しながら弁当(外ヶ浜の特産物入り)を食べて、三厩駅で下車してバスで竜飛岬に移動して写真撮影などを行う。終了したら、バスで三厩駅に移動し、蟹田駅に戻り、終了する。※集合するのは蟹田駅であり、解散は竜飛ホテル、新幹線駅近く(津軽二股駅)、蟹田駅とする。

必要なことやもの

- ・JRとの協議(必須)
- ・観光ガイド
- ・弁当 等々



SNS等を活用した案だ。まずは、YouTubeである。YouTube(ある程度外ヶ浜町を紹介した状態)で大平山元遺跡の魅力を観光ガイドや有名な方に紹介してもらい動画編集して動画を発信する。次に、Twitterである。ある程度はYouTubeと同じであるが、文章でも発信していくことが大事である。最後に、インターネット販売である。「ムーモン」が重要である。このキャラクターを使ったクッキー等をインターネットで販売することでたくさんの人が買ってくれる。

必要なことやもの

- ・SNS発信用機材
- ・観光ガイドや有名な方
- ・販売するもの 等々



引用(画像)元：外ヶ浜町、Wikipedia、東奥日報、YouTube等

## 4 事業成果等

## 4 事業成果等

### (1) 事業成果

本事業では3つの主な取組として、基礎的な知識を学ぶ「案内人養成講座」、実際に遺跡でガイド体験等を行う「案内人体験活動」、学んだ成果を基に提案発表を行う「フォーラム・学習成果発表会」を実施しています。

ここでは、各取組に参加した生徒のアンケート結果に基づき、事業成果について分析します。

#### ① 案内人養成講座

案内人養成講座終了後のアンケートによると、「文化財にも色々な種類があることがわかりました。」、「自分の住んでいる町に思っていた以上に文化財があることがわかった。」などの意見があり、事業開始前は、自分の周りの文化財について、高校生の興味・関心が必ずしも高いわけではないことがわかりました。

案内人養成講座の後のアンケートでは「今までは、縄文遺跡として一つに考えていたが、それぞれの遺跡に際立った特徴があることがわかった。」、「遺跡一つ一つはもちろん、近くの遺跡との関連性、同じ時代に栄えた遺跡と比べてみることでより魅力が引き出せることがわかった。」との意見があり、それぞれの遺跡に対する理解が深まったと考えられます。

#### ② 案内人体験活動

案内人体験の実施に当たって、「遺跡について書かれている新聞記事のスクラップを集めた。」、「県立郷土館で講演会に参加し遺跡について学んだ。また、郷土館の縄文資料や展示を見て暮らしの様子などを学んだ。」など、事前に下調べを行ったなどの回答があり、高校生が自主的かつ積極的に取り組んでいる感じが感じられます。

また、ガイド体験をした後の感想では、「最初は遺跡の名前すら、知らなかったけど、ガイド体験に参加することで縄文人の生活をたくさん想像することができた。縄文遺跡の魅力をたくさんの人に伝えようと思った。」、「縄文遺跡の大切さについて改めて知ることができたし、青森県民として守っていかなければならないと思った。」などの感想があり、参加した高校生が、地元の縄文遺跡や文化財への興味関心を高め、改めて郷土の魅力を感じるきっかけになったと考えられます。

その他では、「将来、観光に関する職業につきたいと考えていて、どうすれば分かりやすく伝えられるか、もっと発信していく方法を考えられ、良い経験となりました。」、「将来、県職員になりたいと考えており、縄文遺跡を活用した観光客を増やす方法を知ることができて良かった。」とあり、将来的に縄文遺跡や文化財に関わっていく可能性を感じさせる意見もありました。



### ③ フォーラム・学習成果発表会

最後の取組のフォーラム・学習成果発表会では、様々な文化財の活用のアイデアが出されました。中でも、八戸商業高等学校の生徒が取り組んだ、合掌土偶をモチーフとした絵馬や、弘前実業高等学校の生徒が提案し実現した、大森勝山遺跡の環状列石に見立てた『大盛カツ山カレー』は、実際に神社や飲食店とコラボし販売することができ、文化財を通じた地域活性化の取組として大きな成果であったと考えられます。また、青森中央高等学校では、小牧野遺跡に関する紙芝居による読み聞かせを提案したグループもあり、子ども達に向けた授業等での活用が期待されるところです。

フォーラム・学習成果発表会終了後のアンケートには、「世界遺産登録に向けて盛り上げる手伝いを少しでもやっていきたいと思った。」、「ここで得た知識は有意義なもので、できる限り活かしていきたい。」、「文化財を、私たちが中心となり大切にしていきたいと思いました。」など、文化財の保存・活用に目を向けた意見があり、本事業を通じ、本県文化財に興味・関心を持つ人々の裾野を広げていくことに効果があったものと考えられます。

また、各年度のまとめとして実施したフォーラム・学習成果発表会について、令和元年度はフォーラムとして開催し、高校生の意見を一般県民の方に発表することができましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、学習成果発表会として高校生のみが参加する形で開催しました。

一般県民等に向けて発表する機会が失われてしまったのが残念ですが、3地区合同で発表会を開催したことにより、様々な学校の生徒が一堂に会し、発表に対して互いに意見を交わすなど、参加した生徒には良い経験になったと思われます。

(※令和2年度は、前年度に比べて大幅に参加者が増加しました。これは、新型コロナウイルス感染症により、様々なイベントや研修会が中止となり、高校生の学習の機会が失われた結果、本事業が受け皿として機能したことも一因であると考えられます。)

## (2) 今後に向けた課題

本事業では、当初から高等学校、地元教育委員会、遺跡での活動団体等との連携を図りながら実施することを想定して準備を進め、実際の取組においても、それぞれの協力を得ながら事業を進めることができました。今後は、事業で構築した連携の形をいかに継続していけるかが大きな課題になると考えられます。

本事業に参加した高等学校の中には、縄文遺跡を題材にした学習に継続して取り組んでいるところもあり、地元の教育委員会や活動団体との適切な連携が図られています。

今後、こうした取組をサポートするとともに、他にも広げていくことが重要と考えられることから、県教育委員会では、文化財の保存・活用を推進する取組の中で、様々な連携の形を模索するとともに、構築を進めていきます。

### (3) 事業のまとめ

フォーラムや学習成果発表会において、様々な活用方法のアイデアが高校生から提案されました。発表後の講評の際には、参加した各市町教育委員会から実現の可能性について検討するとの発言もありました。中でも、遺跡に関する紙芝居による読み聞かせについては、遺跡の活動団体から好評を得ているところであり、イベントなどでの実施が期待されます。

また、文化財を題材にした商品開発をし、実際に販売した事例もみられ、その過程における販路の開拓や商品デザインなどは、通常の教育活動の中ではあまり体験できない貴重なものであったと考えられます。

「文化財を、私たちが中心となり大切にしていきたいと思いました。」とのアンケート結果が示すとおり、本事業の実施を通じて、高校生の文化財に関する興味・関心を高めることに寄与できたものと考えられます。また、高等学校と地元教育委員会や遺跡の活動団体とのつながりが新たに生まれました。

今回生まれたつながりを生かし、文化財を活用した地域活性化に向けた取組に発展させていくことが望まれるところであり、県教育委員会においても引き続き各種事業の実施を通じて支援を図っていきます。





## 5 アンケート集計結果

※設問と主な回答

## ■案内人養成講座

(1) 案内人養成講座について、感想を記入してください。

### ① 地域の文化財について

自分の住んでいる町には思っていた以上に文化財があるとわかった。これらを大切に にして、次の世代やまた次の世代にも伝え、保護されるようにしていきたい。
青森県には、遺跡が意外と多いことを知りました。自分の住んでいるところの遺跡し か知らなかったので、たくさんの遺跡を知ることができてよかった。
文化財にも色々な種類があることがわかりました。文化財について様々な人に知っ てほしいと思います。
「地域の文化財」は県だけでなく、市町村の協力や支えがあって大切にされている のだと感じました。
昔の人が守り続けてきたからこそ残っているものなので、これからの時代の人も守 っていかなければならないと思った。
青森県には魅力的な遺跡がたくさんあるので、まず、地域の人に知ってもらい、そ の価値を伝えていくことが大切だと思った。身近に感じているだけでは魅力は伝わら ないので、地域が活性化することが、重要だと思った。

### ② 縄文遺跡群の魅力について

遺跡一つ一つはもちろん、近くの遺跡との関連性、同じ時代に栄えた遺跡と比べて みることでより魅力が引き出せることがわかった。
今までは、縄文遺跡として一つに考えていたが、それぞれの遺跡に際立った特徴が あることがわかった。
縄文遺跡群だけでなく、地域の魅力を理解して広めることが大切だと思った。県を 超えて近隣の都道府県と協力して広め、世界遺産登録をしてほしいと思った。
一万年以上続いた時代の人々がどのように生活していたのかを知ることができた。 自分が住んでいる地域の遺跡について学ぶと、その地域の魅力をより知ることができ ると思った。
縄文遺跡などをどのように伝えていくかを考えていくことが必要だとわかりまし た。衣食住関連で何か作ってみたり、友人、家族とともに学ぶことも大切だと思いま した。
守り伝えていく立場なので、伝え方の工夫はしっかり考えていきたいと思いまし た。魅力の伝え方については、これから課題研修の授業でみんなと話し合っていきたい と思います。

### ③ 文化財の活用方法について

祭りなど短期間のものだけでなく、一年を通して観光として活用できることをアピ ールしていくことが必要だと思った。
--

<p>ただイベントを作るのではなく、どのようにしたら観光客が来るのかを考えて実行することが大切だと思いました。</p>
<p>自分たちの住む県の事なのに、思った以上に知らない事が多く、驚いた。もっと経験を積み、知識を増やして行くことが必要だと思った。</p>
<p>遺跡をいろいろな人に知ってもらうために、その遺跡のことをよく知って、自分から発信していこうと思った。</p>
<p>観光客は非日常を求めているので、活用する時はその地域独自のものにすればよいと思った。</p>

#### ④ 自由討論について

<p>自分たちの班だけでなく他の班からもおもしろい案があった。案の中で1つでも実現できるなら、その活動に加わりたと思った。</p>
<p>観光は1年を通してやっていかなければならないので、それぞれの季節のよさを活かした体験やイベントがあれば、多くの人を呼び込めることに気づくことが出来た。</p>
<p>自分たちのアイデアを出し合い、検討し、まとめていくことでもっとよりよいものになっていくと感じた。</p>
<p>複数の案を組み合わせることで実現できそうなイベントができ、実施してみたいと思った。</p>

(2) あなたの地域の縄文遺跡を活用して地域を活性化するため、「こういうことをしたらいいな(したいな)」と思うことがあれば、記入してください。

<p>遺跡付近に公園、飲食設備をつくり、交通網を整備して、気軽に観光で行けるようにする。</p>
<p>ここでしか買えないお土産やグッズがあればいいと思った。遺跡独自の体験があれば色々な人が来るのではないかと思った。</p>



## ■ガイド体験

(1) ガイド体験をするに当たり、事前に準備したことはありますか。

遺跡について書かれている新聞記事のスクラップを集めた。
県立郷土館で講演会に参加し、遺跡について学んだ。また、郷土館の縄文資料や展示を見て暮らしの様子なども学んだ。
学校の課題研究の時間を使い、事前に遺跡や行われているイベントなどについて調べた。
遺跡はどのような場所につくられたのか、どのように使われていたのかなどを調べた。
遺跡についてネットで調べたり、遺跡に行ったことがある友人から話を聞いたりした。

(2) 実際にガイド体験をするときに、心がけたことを教えてください。

原稿ばかりを見ずに、相手の顔をしっかりと見て、言いたいことをどのように伝えるか考えながらジェスチャーなどを使って説明した。
誤った情報を伝えないよう、わからないことは憶測で話さずわからないと伝えた。
分かりやすい言葉に置き換えて説明したり、一緒に笑ったり、クイズを交えたりして、工夫することに心がけました。和やかな雰囲気作りにもつとめました。
相手をしっかりと見て、台本をあまり見ないようにした。また、説明にストーリー性をもたせた。

(3) ガイド体験を通して、縄文遺跡にどのような魅力を感じましたか。

わずかな出土品から、縄文時代の人々がどのような生活をしたのかを考えていくのがおもしろいと思った。
昔の人の考え方や工夫を知ることができて、とても興味深かったです。縄文遺跡の食文化に一番魅力を感じました。
縄文時代の人々がどのような思いで生活していたか、どのような目的で遺跡を使ったのか、その思いを想像しただけで楽しくて、もっと知りたい、調べたいと思った。
自分の住んでいる地域に素晴らしい遺跡があることを誇りに思いました。たくさんの種類の土器や土偶が見つかっており、しっかりと形として残っているのも魅力だと思います。

(4) (3) の魅力を地域に発信するには、どのような方法が考えられますか。

もっと多くの人に縄文遺跡の重要性を知ってもらうためには、近くの学校などと協力してボランティアをすることで少しでも興味を持ってもらえるのではと思った。
栗、どんぐり、クルミを収穫して、その場で調理し、素材のおいしさを楽しむというガイド企画をやってみたら面白いと思います。
グッズを作ったり、SNSなど若者が見るツールを使って、情報発信する。

展示施設に実際に来て、実物の展示を見て欲しいので、ポスターやSNSを通じた展示施設の情報発信をもっと行う。

(5) ガイド体験について自由に感想を書いてください。

最初は遺跡の名前すら知らなかったけど、ガイド体験に参加することで縄文人の暮らしをたくさん想像することができた。縄文遺跡の魅力をたくさんの人に伝えようと思った。

縄文遺跡の大切さについて改めて知ることができたとし、青森県民として守っていかなければならないと思った。

将来、観光に関する職業につきたいと考えていて、どうすればわかりやすく伝えられるか、もっと発信していく方法を考えられ、良い経験になりました。

初めてのガイドはとても緊張して、用意した原稿ばかり見ていましたが、次第に慣れていったので、何事も経験で補えるのだと感じました。苦手なことでも何度もチャレンジして行きたいと思います。

自分の言葉で伝えることの難しさを改めて知りました。1日目の練習の段階ではうまくできるか不安だったのですが、実際にガイドをしてみるとガイドの楽しさを知りました。

自分自身が縄文について知識として得られたことや、観光客に自分の言葉で伝えることなど自分にプラスとなるが多かったです。思っていたよりも楽しくてコミュニケーションもとれたので、いい経験になりました。

## ■フォーラム・学習成果発表会

(1) フォーラム・学習成果発表会で一番伝えなかったことを記入してください。

ただの平地で何も無いと思われている遺跡でも、何も無いから、何でもできるということを伝えなかった。見るというより、歴史を感じてほしい。
観光地としてみんなに知ってもらい、来てもらう。そして、情報を拡散する。これらによって未来まで残せるようにすること。
遺跡の魅力と地域の魅力を伝え、遺跡を訪れる人が興味を少しでも持つように情報を発信すること。
魅力はあるが、知名度があまり高くない遺跡について、もっとPRしていくことが大切だということ。

(2) (1) を伝えるために、発表資料で工夫したところや大変だったところを記入してください。

紙芝居を作成し、分かりやすいよう絵を描いたり、文章を考えた。
目を引くようなデザインと印象に残るようなキャッチコピーをつけた。
具体的なアイデアを出した時にどのようなものかいいのかを考えたり、SNSの使用方法や商品化の工夫が大変だった。
遺跡の知識がない人たちにも説明するので、しっかりと伝わりやすいようにするのが大変だった。
説明に抑揚を付けてみたり、ジェスチャー等を使って、ただ話すだけではなく、伝えたいところを強調した。

(3) フォーラム・学習成果発表会に参加した感想を記入してください。

縄文を地域のブランドとして広めるために、たくさんの方が関係していることを知りました。私もこの活動をしながら、世界遺産登録に向けて盛り上げる手伝いを少しでもやっていきたいと思った。
将来、県職員になりたいと考えており、縄文遺跡を活用した観光客を増やす方法を知ることができて良かった。
自分たちの考えたアイデアをしっかりと伝えることができ、また、他校の方々と他の遺跡の魅力などもたくさん聞くことができ、すごく勉強になったし、有意義な時間となりました。
自分の知らない遺跡についての知識も増やすことができ、青森県の遺跡により興味を持つことができた。自分の進路に少しでも役立つことができました。
自分と同じ高校生が、文化財の活用方法を実際に実行し、商品化に向けた活動をしていて驚いた。自分も小さなことから、縄文文化活性化のために行動していきたいと思った。



(4) 高校生縄文案内人養成事業に参加した感想を記入してください。

最初は縄文について全然知らなかったが、自分が案内する立場になって、縄文遺跡のことを知ることができて良かった。ガイド体験をして聞き役となった親子に分かりやすく工夫して伝えられた。子どもたちにもっと興味を持ってほしいと思った。

今まで知らなかった「縄文」について、知ろう、伝えようと思えるようになった良い機会となりました。ガイド体験も縄文とは別に学ぶことが多く、知識を必要とすることの大切さが身にしみてわかりました。普段の活動にも活かすことができ、達成感が得られました。

学芸員を目指しているので、今回の活動はいい経験になりました。ガイド体験は特に貴重で、専門家のみなさんからのアドバイスをいただくことができて良かったです。ここで得た知識はとても有意義なもので、できる限り将来に活かしていきたいです。

この事業に参加して、文化財についてたくさん知ることができました。また、遺跡等といった文化財を、私たちが中心となり大切にしていきたいと思いました。

高校生縄文案内人養成事業記録集

発行 青森県教育委員会（令和3年3月）

編集 青森県教育庁文化財保護課

〒030-8540 青森県青森市長島1丁目1-1

印刷 ワタナベサービス株式会社